

1、「慣れましたか」「ポチポチです」

駐車場への行きや帰りに、ご近所らしき人から「慣れましたか」と声を掛けられることがある。しかし、正確に返事ができず「え、ポチポチです」と答えている。

まず「天」、梅雨と共に猛烈な暑さ、とても体が慣れていかない。しかし、天気の話は、どう返事しても当たり障りがないから、適当に答えている。

「地」、近所の地理や商店・郵便局などの位置は大凡判り、奈良名物の一方通行に誤って入ってしまうミスも少なくなった。行動範囲も広がって、大分慣れた。

しかし安心は禁物。先日も義妹たちが来て、ご希望の「ならまち」へ行こうとしたが「おかしい」と思っているうちに、目的地よりも南へ出た。自分では東へ向かっているつもりだが、道はいつかカーブしていた。奈良ではカー(ブ)ナビが必要か？

「人」に慣れるのは難しい。挨拶してもそれで終わり、キャッチボールのようなやり取りが出来ない。「お暑いこって」と声を掛けて下さったのに「ハイお暑う御座います」の返事では情けないが、次の話題が出ない。名前も存じ上げず、一緒に活動したこともなく、お宅も知らないから、話の接ぎ穂を失ってしまうのである。まだまだ時間が必要か？

家へ帰って打ち水をする。通る人に少し涼しさを提供。

新聞には、奈良各地で自治会や隣組が崩壊し、協力しあうことを拒否する家庭が多くなっているとある。『人好し・仲良し・心善し・笑顔交わして会話よし』が難しい時代である。折角、声を掛けてくださるのだから、もう少しいい返事をせねばならぬ。

2、奈良らしさへの期待

奈良三条通りといえば、JR奈良駅から春日大社へと続く奈良のシンボルロードだが、何年も前からの道路拡幅工事と商店街改善が一向に進展しないと新聞が嘆いている。

街全体の建物の色調をコントロールし、奈良の玄関にふさわしくする。軒下利用や広告物の設置にルールを定める。道を拡幅して路上駐輪など交通の障害をなくし、景観にも配慮する。これらが遅々として進行しないのは、住民の考えの温度差によるという。

最近、奈良市の南の大和郡山市のメインストリート「いのまち線」が開通して南北の交通が緩和されたが、こちらでも計画の開始から60年。事業開始から30年を経過し、最初の頃の人には大部分が亡くなっているという。これも温度差か？

滋賀県彦根市の「夢京橋キャッスルロード」は、住民の協力で、城下町らしい江戸町屋が並ぶ整備を行い、訪問者急増、経済効果も18億円以上といわれる。

奈良には行きたい所が多いが行きにくい。友人から問合せがあっても推薦出来ない歯痒さがある。三条通りに限らず、不便が多いからである。「放っておいても観光客は来る」「長い歴史の町だ、歩いて行け！」では将来的な解決になるまいと思う。

本年上半期、去年の遷都祭に比べて人出も経済効果も三分の一に減少したらしい。

複雑な権利や主張があるだろうが、さらにスピーディで効果的な解決が求められる。

3、大和は国のまほろば

日本書記の『まほろば』（優れた場所の意）という言葉も多くの人に愛されている。「まほろば」といえば『橿原』。私などは「神武天皇」「金鷄輝く日本の…紀元は二千六百年」「恩賜のタバコを頂いて…」と続くが、そんな話は脇へ置いて……

橿原は斑鳩の南、飛鳥（明日香）の西にある。中心に日本初の律令制都市・藤原京跡があり、取り囲むように「香久山」「畝傍山」「耳成山」がある。この辺り、まだ人口密度も高くなく、ビルも少ないので『国のまほろば』が偲ばれる。「さて何処へ行こうか？」

温泉＝橿原自然の湯・長谷寺温泉・美榛温泉…どれも良さそう。

万葉集ゆかりの地＝大和三山・かぎろひの丘・万葉文化館…。勉強し直しだな

有名寺院＝安倍文殊院・長谷寺・室生寺・久米仙人が墜落した久米寺など。飛行禁止。

有名神社＝橿原神宮・談山神社・戦艦大和の大和神社・相撲神社など。

古墳＝「箸墓古墳」は卑弥呼の墓か？ 科学の進歩で新発見が続出中。

自然＝室生山芸術の森・奥香落溪谷・三峰山…いいとこだけど、歩くのは苦手だな。

古い町並み今井町。自治・環濠城塞都市「大和の金の七割は今井」の繁栄。海の堺に陸の今井と称されて、今も古い町並みが残っている……。これがいいかな。

4、奈良新聞・読者文芸から（俳句・川柳）

葛城の山より引きし田植え水 カジカ笛 これより上に人家なし
郭公が斜めに横切る妹背川 スズランを有刺鉄線で囲いあり
エコを説くへボなテレビは見ぬがエコ 風評を笑い飛ばして一番茶

（五行詩） ……新聞にはこうした作品も掲載されています……

暁け方近く	「アテがウトータの」と
鋭く鳴きしは	イヤホーンを
ホトトギスカ	当てがってあげる
父の命日	臥せったままの
墓参りせむ	オカンの唇が動く

5、奈良にもうまいものあり

①奈良茶飯 ②大和茶粥 ③素麺・にゅうめん・葛麺 ④柿の葉寿司・朴の葉寿司

⑤古代のチーズ「蘇」 ⑥黒米カレー ⑦飛鳥鍋 ⑧大和牛カツ ⑨大和コロケ

入手したパンフレットに記された九選だが、表題の「奈良にもうまいものあり」がちょっとおかしい。さらに、持ち帰れる土産は少ない・同名でも調理人により味が異なる・名人でなくても作れる・奈良の味は包丁の技ではない。などの注釈は尚おかしい。

所詮、味覚は主観的なもので、生育暦や経験、食環境等によって一様ではないのだから、威張ることも卑下することもないと思うのだが……。

6、 龍田城跡の草取り

「龍田公園の草取りを行う」との通知が来て、いろいろな人に会える期待をしていたが、班長さんに「危険なところだから若い人にお任せしなさい」と言われて、諦めることとし、前日に草取場の龍田城跡を歩く。片桐且元二十万石の城。西面は龍田川に落ち込む天然の要害。なるほど、この急斜面の草取りは危険だ。「若い人に頼まねばなるまい」と納得。

屋敷跡の説明を読む。昔は可成の広さで、東南の大和川も防御線の一部、堀にした池などが残る。また、わが家がある龍田南は城の追手門だったとのこと。

且元の弟・貞隆は、兄に従って活躍し陣屋を法隆寺の東に構えた。これが大和小泉城。貞隆は没後に慈光院に祀られた。その慈光院は徳川時代の武士茶道・石州流で知られるが、実は兄且元の龍田城を守り、大和平野の東北方面を監視する見張り砦だったという。庭から見て、広々と展望が良い理由がよく判る。また、龍田の西隣り平群町の椿井城には筒井順慶の武将・島左近が住まっていたという。西方の信貴山城の監視場らしい。信貴山を根拠する謀将・松永弾正久秀の横暴を見張るためには不可欠な構造物だったのであろう。

7、 奈良弁と静岡弁

婆「しっかりランドセルしょって行くのよ！」 孫「今、おばあちゃん、何イウタン？」
「エッ！？ しょってのは静岡弁？」 私「♪ランドセル背負って♪という歌があるよ」
「ランドセル持ってかしら？」 「肩に掛けるのに、持つというのはおかしいナ」??

奈良弁で何というべきか知りまっへん。お国訛りは『出身地証』だけど、意志が伝わらずに「何イウタン(何を言ったのか?)」も困るネ。

ちなみに、孫がしゃべる奈良弁を『書く』という言葉で並べてみると……

書きません＝カカヘン、書いておられる＝カカハル、カイタハル 書きなさい＝カキイ、
書いてる＝カキヨル、書きながら＝カキモチ、書きたい＝カクウ、書きました＝カイタ
ヤロ、カイタデェ、書いてある＝カイタール、書いたでしょう＝カイタヤンカ、
書いてますよ＝カイトルデェ、書いてるじゃないか＝カイトルネン、などなど。

8、 蔵書と図書館

斑鳩町役場から「東北被災地の小中学生へ図書への寄贈」の募集があった。半年前の私ならダンボール2～3個は提供できたはずだが、今は一冊もない。清水を出る際にほとんどを贈与・寄贈・焼却してしまったからである。

斑鳩へ来て、持参した荷物の整理も終わりつつあるが、毎日、不便を感じている。「エート、あの本は????」と思っても見当たらない。多分、誰かにあげてしまったんだナ。そこで図書館通いとなるが、すぐには役立たない。目的の事項を見つけるにも時間がかかるが、簡単すぎたり、詳しすぎたり、要は手慣れていないための混乱が多いのである。

今更、図書を買って揃える元気もないので、毎週、図書館通いになる。今度は県立図書館に行ってみようかな。音楽図書館・楽譜図書館・生涯教育関係図書館などというのがあると便利でいいのだが……

9、平城京・天平祭り

昨年の平城遷都1300に繋げるイベントとして、平城宮跡で行われるもの。

○ 光の天平行列 ○ インスタレーション ○ メッセージ行灯 ○ 燈火会

期日：いずれも8月19日～21日

10、奈良でも『大文字焼き』

大文字焼きと言えば京都東山を中心とする夏の風物詩だが、奈良でも東方の高円山で戦没者追悼を目的に、世界平和を願って行われる。横の長さ164mで、火床数は人間の煩惱に会わせて108。8月15日、飛火野で慰霊祭を行ったあと、午後8時点火である。

問合せ＝0742-22-5200 大文字保存会

同日、東大寺では万灯供養会(17時) 春日大社では中元万灯籠が行われる。

また、奈良県には海がないため、7月18日は山と川の日として各種行事がある。

問合せ＝0742-22-5200 奈良市観光センター

11 手裏剣選手権はどうだい

奈良の話ではないです。忍者といえばお隣の三重県の伊賀上野。そこにある観光協会が「伊賀流手裏剣打選手権大会」への参加を呼びかけている。私らの子供時代は猿飛佐助と霧隠才蔵であり、印を結んで姿を隠し、あまり飛び道具は用いなかったと思うのだが、今のアニメでは「シュルシュル」などと声を掛けながら手裏剣を飛ばすのでしょうか。

本選は10月16日。競技ルールや詳細は 伊賀上野観光協会伊賀流忍者博物館

電話0595-23-0311

12、丸ナス

丸ナスといえば「一富士 二タカ 三ナスビ」の折戸ナスが思い起こされるが、ナスはインド東部が原産で、南中国を経て、大和には平城京時代ころに伝来したという。

当時の物が「長」か「丸」かよく判らないが、のち、平安時代に京都の「加茂ナス」に、品種改良を加えて出来たのが現在の「大和丸ナス」。肉質がきめ細かく、色艶が長持ちし、アクが少なく煮崩れしにくいのが特徴と言う。

調理の仕方も「長・丸の区別がない」が、長にない丸の瑞々しい旨さは大切とのこと。味覚・料理音痴の私に調理レシピなど「馬の耳に念仏」だが、これはおもしろそうと思った一品。

題して「干し丸ナスのギョウザ」 中国語なら「干茄餃子」とでも言うのかしらん。

まず丸ナスをヘタと平行に2～3mmの厚さに切り、1～2日、日陰干しにする。これを調理の際に5分ほど水に戻し、水気を切って餃子の皮とする。具にする物はお好みだが、ナスが炒め物と相性が良いため、肉餃子でも野菜餃子でも相手を選ばず美味に仕上がる。様々に試行できるとのこと。折戸丸ナスでも応用できるはず。お試しあれ。

問合せ <http://www.ja-naraken-shop.jp/>